資料4－1

・伊豆地域の現状と課題

・伊豆地域の道路ネットワークに関する既存計画

～伊豆地域の現状と課題～

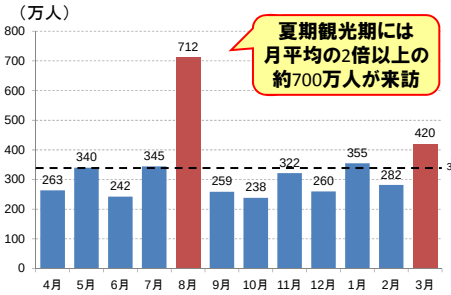
課題(1) 観光

■伊豆地域には全国有数の観光施設が豊富に立地しており、夏期観光期（8月）には約710万人、河津桜まつり期（3月）には約420万人が来訪
■伊豆地域の交通網は、鉄道網が限定的で長距離バス網も乏しいため、観光時の移動手段の約8割は自動車を利用
■観光シーズンに渋滞が多いことや道が狭く走りにくいなど、旅行中の移動に対する不満は高い

■伊豆地域の主要な観光施設と公共交通

出典：伊豆半島グランドデザイン 美しい伊豆創造センターより作成

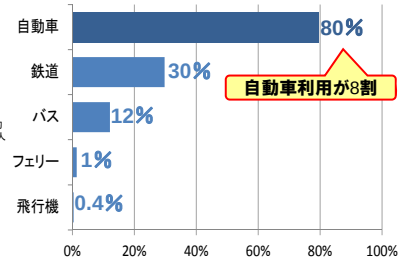
■伊豆地域の月別観光交流客数



出典：静岡県観光交流の動向（H26）

■伊豆地域への利用交通手段

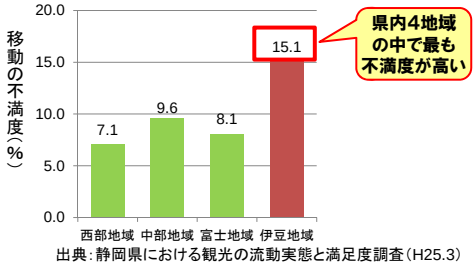
（移動に利用した交通手段をすべて回答（複数回答可））



出典：静岡県における観光の流動実態と満足度調査（H25.3）

■旅行中の移動に対する不満度

（回答に対する「非常に不満」「やや不満」の合計の割合）



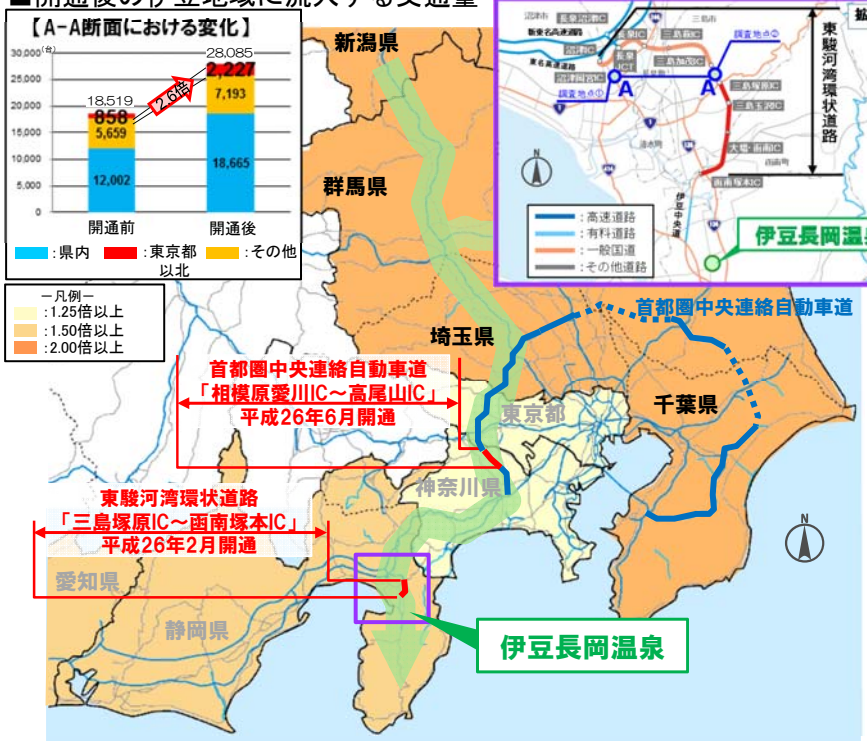
出典：静岡県における観光の流動実態と満足度調査（H25.3）

・休日、特に観光シーズンには渋滞が発生する上、道路が狭く、坂がきついため、時間がかかる（河津町職員）

（参考）伊豆地域の観光交流客数

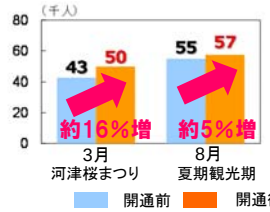
■平成26年度に伊豆縦貫自動車道「三島塚原IC～函南塚本IC」、首都圏中央連絡自動車道「相模原愛川IC～高尾山IC」の開通により、東京都以北から伊豆地域へ訪れる交通量が約2.6倍増加し、伊豆長岡温泉では宿泊者数が約16%増加し、入湯税も約9%増加。
■伊豆地域の観光交流客数は、北部は増加傾向があるものの、南部は増加がみられない。

■開通後の伊豆地域に流入する交通量

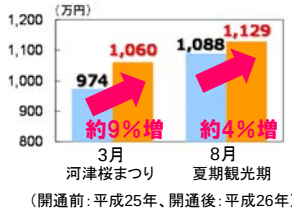


出典：開通前平成22年8月14日（土）、開通後平成26年8月13日（水） 調査断面の南進方向流入部にて昼間12時間（7時～19時）観測
静岡県は、ナンバープレートが浜松・静岡・沼津・伊豆・富士山（一部山梨県を含む）を集計

■伊豆長岡温泉宿泊者数



■伊豆長岡温泉入湯税

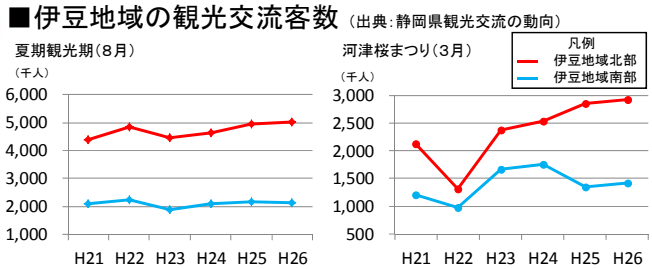


（開通前：平成25年、開通後：平成26年）

出典：伊豆長岡温泉旅館協同組合資料により作成

・東駿河湾環状道路および首都圏中央連絡自動車道の開通後、特に東京都以北方面から来訪が増え、売上も前年より増加しており、開通の効果を実感している。
（伊豆長岡温泉旅館協同組合）

■伊豆地域の観光交流客数（出典：静岡県観光交流の動向）



伊豆地域北部：増加傾向
伊豆地域南部：変化はない

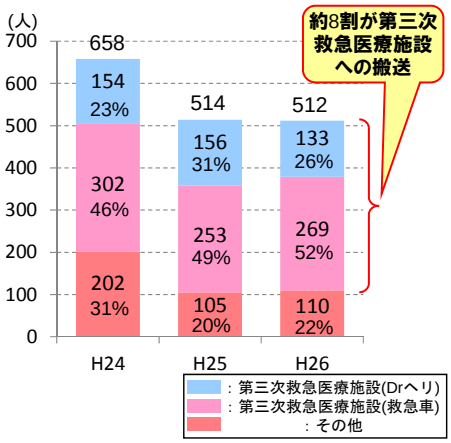
課題（2） 医療（高次医療施設への搬送時間）

■伊豆地域南部には第三次救急医療施設が無いため、下田消防本部の管外搬送のうち約８割が伊豆地域北部の第三次救急医療施設への搬送
■伊豆地域南部から伊豆地域北部の第三次救急医療施設への救急搬送には、60分以上の時間を要する
■伊豆地域南部における心疾患や脳血管疾患の死亡率は全国平均の約2倍と高い

■第三次救急医療施設への搬送時間60分圏

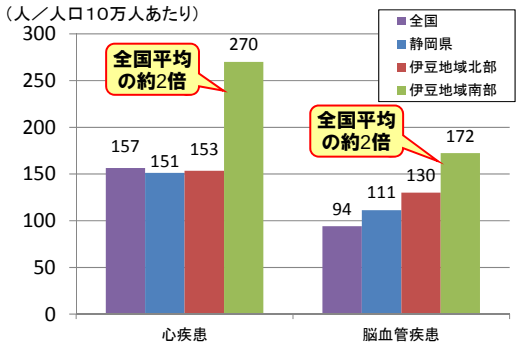
第三次救急医療施設への搬送時間60分圏（整備前）
出典：H22道路交通センサス旅行速度で算出

■下田消防本部の管外搬送先内訳



出典：下田市消防本部提供資料

■心疾患と脳血管疾患での死亡率



【伊豆地域北部】
沼津市、熱海市、三島市、伊東市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、清水町、長泉町
【伊豆地域南部】
下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町
出典：H25人口動態統計

国道414号を北進し第三次医療機関へ向かう救急車

■下田消防本部へのヒアリング結果（H26.12.22）

・ドクターヘリがあれば、陸路での搬送は不要ではないかという意見もあるが、有視界飛行が前提となるため、夜間だと要請しない。また、昼間でも悪天候や濃霧の場合、要請しても飛ばないことが多くあり、陸路の整備は必要不可欠。
・天城峠区間は時間がかかるところが課題。中には、順天堂大学病院まであと少しのところで命を落とす方もおり、1分でも早く病院に到達するということは極めて重要。

課題（3） 防災（南海トラフ巨大地震等への備え）

■伊豆地域沿岸部では、高確率で発生が想定されている南海トラフ巨大地震等の津波（推定津波高さ5～33m）により浸水が想定されており、内陸部の国道414号では、緊急輸送が可能なレベルの復旧に1週間以上を要する。
■一方、広範囲で津波による被害が発生した際の道路啓開作業路線を位置付けた「伊豆地域における道路啓開基本方針（～伊豆版「くしの歯作戦」～）」では、国道414号を含む内陸部の国道は、新東名、東名高速道路からの救命・救援ルートとして道路啓開作業①に位置付けられており、早期にルートを確保する必要がある。

■緊急輸送道路の被害想定
（南海トラフ巨大地震時）

■30年以内の地震発生確率

南海トラフ巨大地震	
東海地震	88%
東南海地震	70%
南海地震	60%
相模トラフ地震	70%

出典：文部科学省地震調査研究推進本部（H24.1）

【道路施設影響度ランク】

影響度ランク		被害規模	緊急輸送が可能なレベルの復旧に要する日数目安
AA	―	大	1週間以上
A	―	中	3日～1週間
B	―	小	当日～3日
C	―	なし	―

出典：静岡県第4次地震被害想定（第二次報告）（H25.11）

：推定最大津波高さ
：津波浸水箇所（国道と推定津波浸水域の交差箇所）
：推定津波浸水域

出典：内閣府南海トラフ巨大地震の被害想定（第二次報告）（H25.3）より作成

■伊豆版「くしの歯作戦」の道路啓開作業路線

出典：伊豆地域における道路啓開基本方針（H25.3）を基に作成

～伊豆地域の道路ネットワークに関する既存計画～

伊豆地域の道路整備のあり方（平成24年8月）①
（伊豆地域の道路ネットワークの将来像）

・伊豆地域の道路ネットワーク整備の考え方

県外と伊豆地域及び地域内の2つに分けて検討

◆高規格幹線道路で新たな圏域につながる伊豆地域

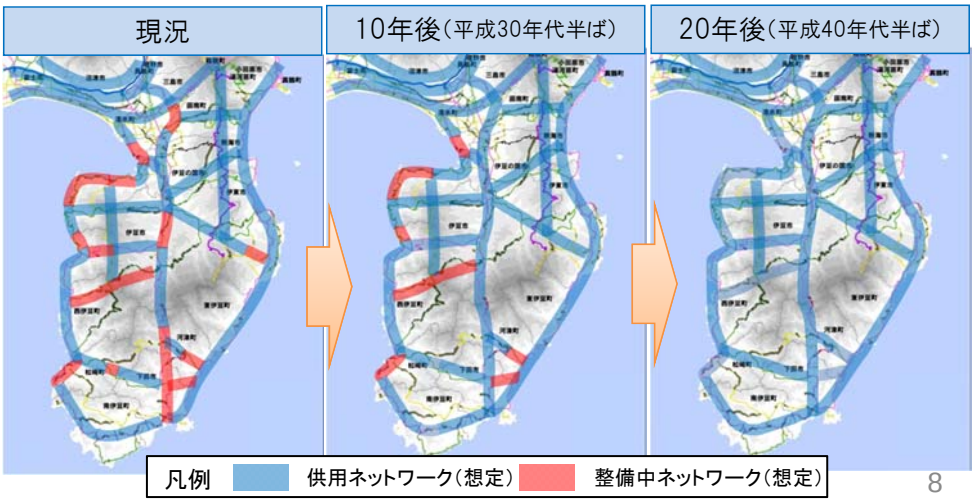
◆伊豆縦貫自動車道と地域内道路ネットワークによる道路ネットワークの形成

・伊豆地域の道路整備の今後の見通し

【中長期を見据えた整備見通しの確立】

《概ね10年以内（目標）》
・地域間の幹線軸となる道路整備を進める。
（事前通行規制区間内の防災対策や、緊急輸送路における橋梁の耐震化もあわせて完了させる。）

《概ね20年以内（目標）》
・地域間の複数の路線確保を目指す。



伊豆地域の道路整備のあり方（平成24年8月）②
（伊豆地域の道路整備に向けた対応方針）

将来像実現に向けた実施方針と具体メニュー

将来像

- 伊豆地域と他地域を結ぶ **伊豆縦貫自動車道の整備**
- 伊豆縦貫自動車道とつながる **地域内道路ネットワークの整備**

実施方針

- 伊豆縦貫自動車道の早期整備
- 利用しやすい伊豆縦貫自動車道の実現
- 地域内道路ネットワークの早期整備
- 効率的な道路の管理

具体メニュー

- 東駿河湾環状道路、天城北道路、河津下田道路の整備促進
- アクセス道路の円滑な連結の推進（国道136号天城湯ヶ島ＩＣ連絡路等）
- 江間ＩＣのフル化による交差点改良・信号機撤去
- 有料道路の償還計画見直し（伊豆中央道・修善寺道路）地域住民に配慮した料金施策
- 道路改良事業の推進（国道136号土肥拡幅等）
- 各種防災対策の実施（事前通行規制区間解消、橋梁耐震対策）
- 1.5車線的道路整備（仁科峠宇久須線等）
- ITSの活用（対向車接近システム、所要時間提供　等）
- 橋梁・舗装等の長寿命化
- 地域住民との協働による維持管理

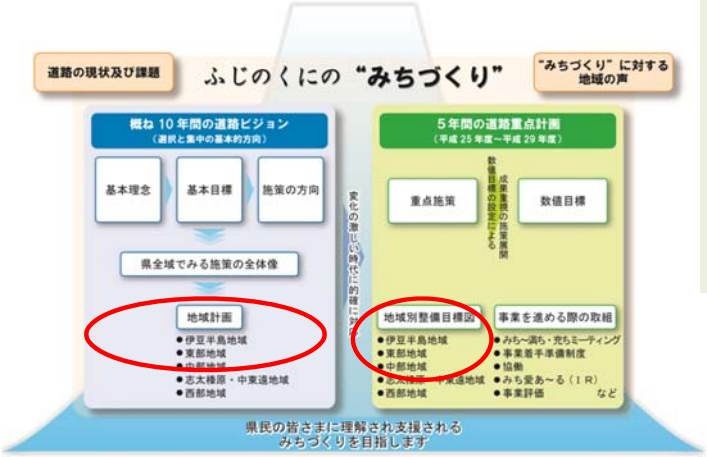
本提言を受け、平成26年４月より合併採算制を導入
（あわせて、江間ICの交差点立体化・フルインター化に着手）

凡例　投資的事業で対応するもの　維持管理事業で対応するもの

ふじのくにの“みちづくり”（平成25年7月策定）（①概要）

○計画のポイント

- 「東海道新時代を拓く ふじのくにの“みちづくり”」を基本理念に位置付け
- 「安全・安心」の取組を強化し、新たに「命と暮らしを守る」を基本目標に設定
- 維持更新費用の増大を見据え、整備だけでなく保全、活用を総合的に行う「道路マネジメント」を、これまで以上に積極的に推進



●概ね10年間の「道路ビジョン」と5年間の「道路重点計画」で構成

・「道路ビジョン」

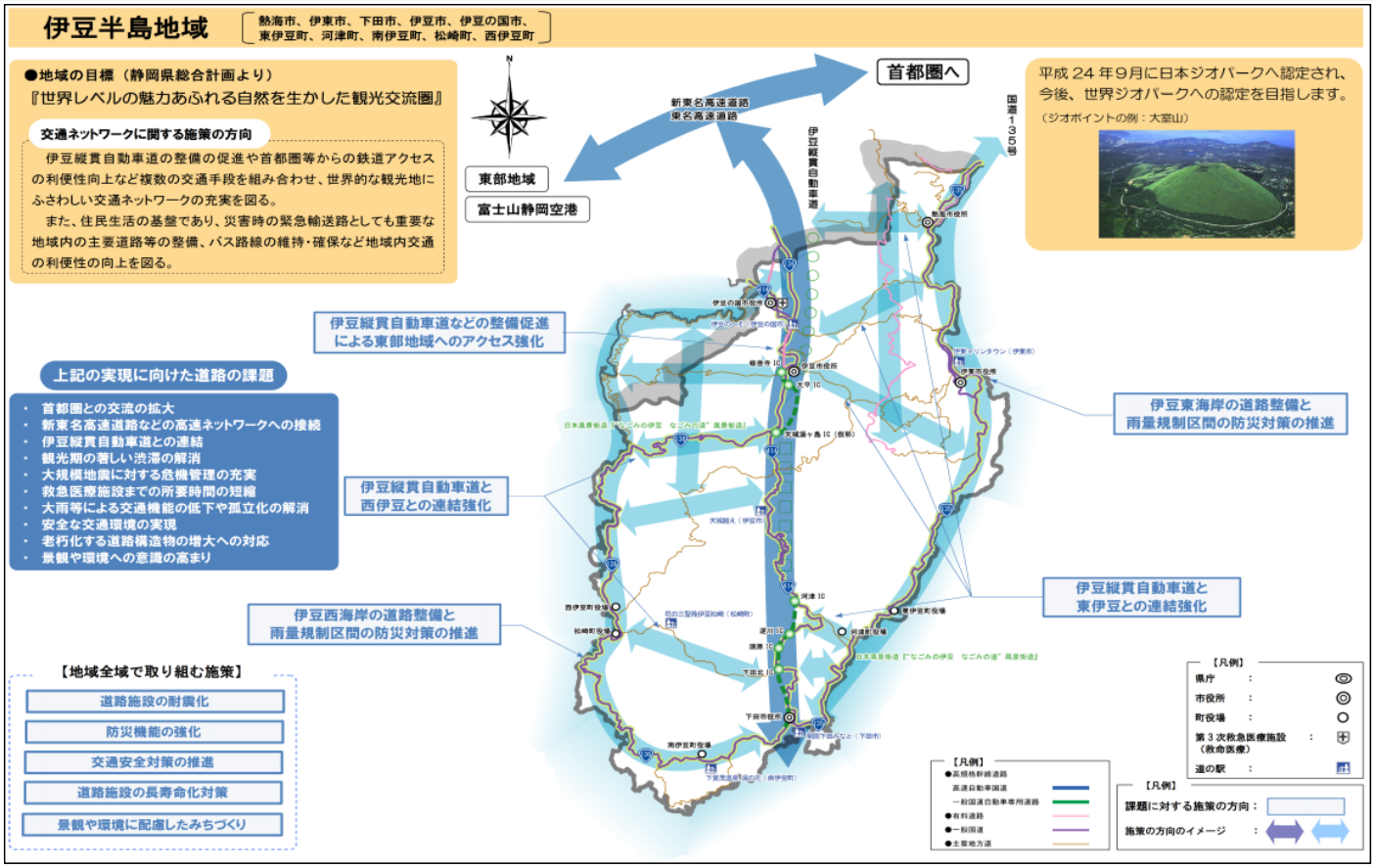
概ね10年間のみちづくりの施策や事業の選択と集中の方向を示す。

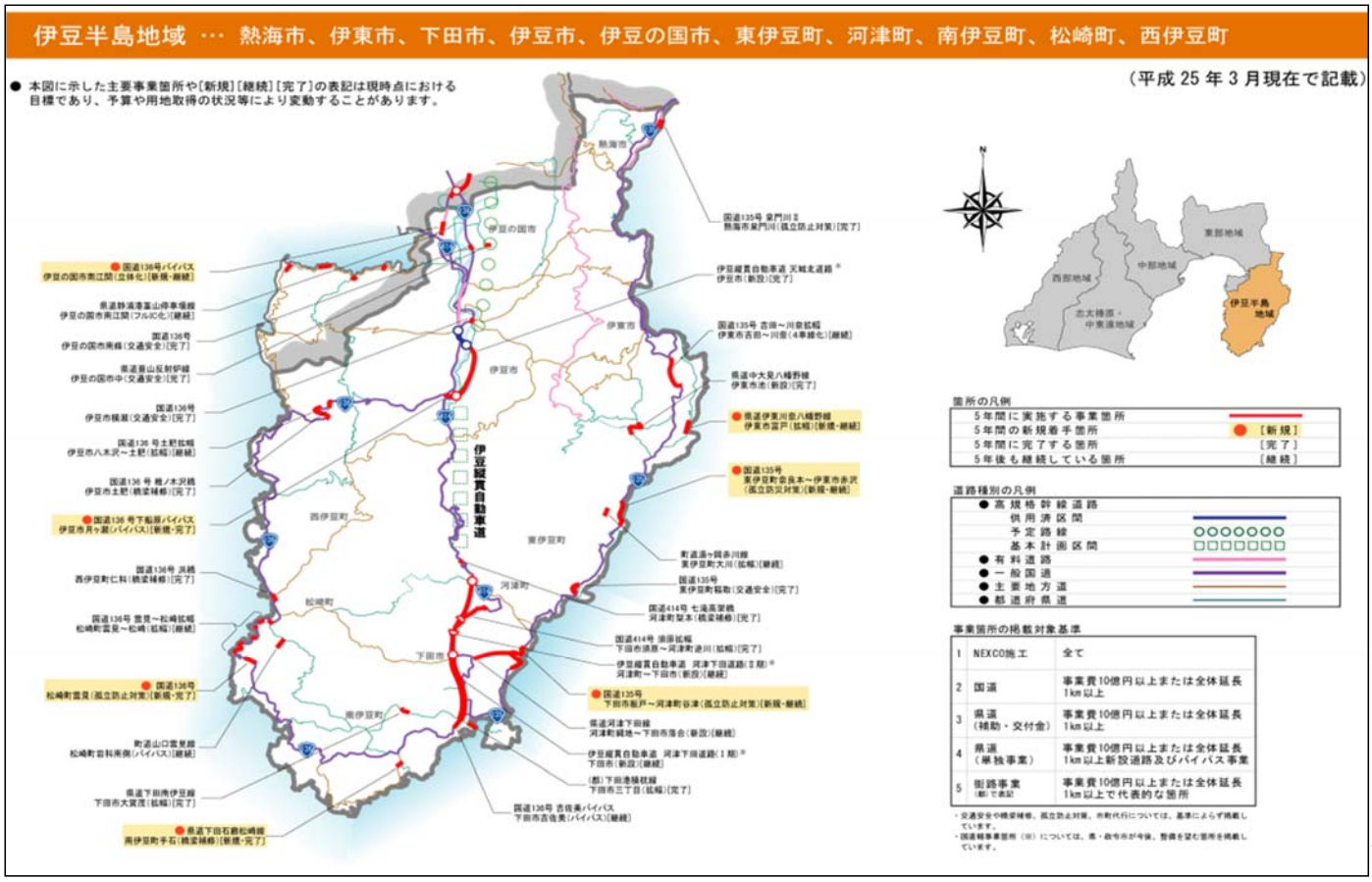
・「道路重点計画」

平成25年度から平成29年度の5年間に取り組む施策や目標を示す。

ふじのくにの“みちづくり”（②地域計画（伊豆半島地域））

○概ね10年間のみちづくりの施策や事業の選択と集中の方向を示す「道路ビジョン」」中に、地域計画として、ネットワーク図を明示。



ふじのくにの“みちづくり”（③地域別整備目標図（伊豆半島地域））

○「道路重点計画」中に、5ヶ年（平成25年～29年）で取り組む主な事業箇所の整備目標を公表。